

五月九日、月曜日の朝です。みなさんお元気でしたか。一年生は、おへそをこちらに向けて、目ん玉と心もこちらに向けて、聞いてください。

この方、ナポレオン・ボナパルトさん。(肖像画提示) 日本で言う江戸時代の頃のフランスの軍人さんです。右手を服に突っ込んでいるのが見えますか。なぜ右手を突っ込んでいるのか？ナポレオンさんが胃の病気で、胃が痛くて押さえていたとか、皮膚病がかゆくて、手を入れてかいていたとか、その当時の地位の高い人がとるポーズだったとか、色々な説があります。

次なるこの方、やはり江戸時代の人、坂本龍馬さん。(写真提示) あれ、この方も右手を和服に突っ込んでいませんか。この方も胃の病気があって、胃の痛みを我慢して押さえていたとか、最新式の六連発の拳銃を胸に入れていて、それを押さえているところとか、これまた、色々な説があります。この龍馬さん、和服に革のブーツをはいていたそうで、新しい物好きの人だったのかもしれないですね。さて、本日の主人公。この方が誰だか分かりますか。(写真提示) 本にある小さな写真を大きく拡大したので、画質が悪くて見えにくいかもしれませんが、この方も右手を服の中に入れてるように見えますか。

この方こそ、一八七四(明治七)年、二月三日に築地に立教学院の元になる学校をつく

られた、チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教です。その頃の学生さんの数は五名とも八名とも言われていて、学校というより塾のような感じだったようです。名前も正式にはなく、最初は「ボーイズスクール」と呼ばれていたようですが、そのうち「立教学院」と呼ばれるようになります。この小さな、聖書と英語を教える「学校」が立教の始まりです。

今から百四十八年前の二月三日に始まった「立教」は、今では大学生だけでも二万人を超え、中高生や小学生を合わせても三万人を超える学校になりました。一八七〇年代は二月に創立記念の礼拝をしていたようですが、いつごろからか、五月に創立記念の礼拝をするように変わってきたようです。今日、五月九日の夕方、立教学院の百四十八歳を記念する礼拝が行われます。

このウィリアムズ主教の写真、右手を服に入れて見るようにも、何かを取り出しているようにも見えます。小学校の正門右脇や大学チャペルの横にあるウィリアムズ主教の銅像は立ち姿で、ポケットから何かを取り出しているようにも見えます。

ウィリアムズ主教は、暮らしに困っている人を見つけると、ポケットからお金を取り出し、周りで見ている人がいないか確認して、そっとお金を手渡し、風のように去って行ったのだそうです。だから、お金をもらった人は、誰からお金を頂いたのか、分からないぐ

らいだったそうです。

主教は、子どもに会うと、真っ先に挨拶して、ポケットからお菓子をとり出して渡し、大人に接するのと同じように丁寧にお話したそうです。主教の銅像は、きつと、ポケットからお金やお菓子をとり出そうとしているところなのかもしれませんね。

聖書に「憐みの施しをする際、あなたの右の手がしていることを、左の手に知らせてはなりません。」という言葉があります。ウィリアムズ主教は、これを忠実に守っていたようです。ウィリアムズ主教のように、人の見ていないところで良いことをするのを「上」とすると、人の見ているところで目立つように良いことをするのは、やらないよりやった方がいいに決まっています。人に見ているところでは悪いことをする、たとえば電車の中で大声を出したり、ホームを走り回ったりするような行為は「下」。人の見ていないところで、隠れてこそ悪いことをするのは「下の下」。ぼくたちはウィリアムズ主教のおつくりになった学校の子どもたちです。決して、「下」や「下の下」の人間に成り下がっていけないのです。



(立教小学校校長 田代 正行)